

## プロジェクト課題活動実績

### 課題名：園芸産地の生産構造改革

山口農林事務所農業部      チーム員：陶山紀江、金治直子、岡田知子、  
河本一慶

#### <活動事例の要旨>

管内の露地、施設野菜産地の維持拡大に向けた取り組みを行った。

露地野菜は、山口市南部地区の集落営農法人を対象に、たまねぎ、キャベツの作付推進や法人間の連携に向けた検討を行うとともに、J A山口中央南部露地野菜P Jと連携して各種技術実証、販売先の開拓等に取り組んだ。

施設野菜は、山口あぶトマト部会阿東支部をモデルとし、産地の求める人材確保に向けた産地側の新規就農者受入体制の整備に取り組んだ。

#### 1 普及活動の課題・目標

- ・管内は露地野菜・施設野菜とも県下有数の産地だが、生産者の高齢化が進み、面積は減少傾向にある。
- ・たまねぎ、キャベツ等の露地野菜は山口市南部地区の集落営農法人で取り組まれ、法人の作付は増加傾向にある。平成26年からキャベツで鉄コンテナによる業務向け出荷が始まり、法人と実需先との連携した取組が始まり、たまねぎでは平成27年に鉄コンテナでの搬出・貯蔵体系の実証に取り組んできた。今後も、実需との取組を拡大し、鉄コンテナを活用した実証活動等に取り組む、法人への生産拡大を進める。作付推進にあたっては、地区法人協を主体に行い、併せて法人間の情報交換や連携に向けた検討を実施する。
- ・また、既存産地の面積が減少傾向にある一方で、園芸品目で就農を希望する者は多いが、農地の確保や技術習得等就農に向けての既存産地との連携が十分ではなく、産地拡大に結びついていないことが多い。そこで、山口あぶトマト部会阿東支部をモデル産地とし、産地側で今後の方向性を整理し、新規就農者受入に向けての体制を検討、整備し、産地側の求める人材確保により産地の面積維持、拡大を図る。

#### 2 普及活動の内容

##### (1) 法人への作付推進、連携に向けた取組

対象法人について、キャベツ、たまねぎの今後の作付意向や、生産拡大に向けた問題点等を聞き取り、課題を整理した。

また、二島地区法人連携協議会を対象に、事務局のJ Aと協議し、今後連携を進めるための協議会内の体制整備や機械共同利用試行について提案を行った。

(2) J A山口中央南部露地野菜P Jと連携した各種実証等の取組

ア たまねぎ

面積拡大に伴う拾い上げ作業の省力化に向け、昇降型ピッカーの実演会開催を支援し、法人等への周知を図った。

また、たまねぎの面積拡大を目指す法人が、全自動4条植え定植機を導入し、448穴専用トレイでの自家育苗に取り組むことになったため、育苗指導を行うとともに、定植後の生育調査を実施中している。

イ キャベツ

業務向けも含めた品種・作型試験を実施し、前年度の試験結果をもとに本年度の試験計画の作成と法人への作付計画提案を支援した。

本年度の試験及び作付結果については、今後検討予定である。

(3) 新たな販売先の開拓支援

鉄コンテナによる新たな出荷先についての情報収集を支援した。

また、新たにサラダクラブへの加工業務向けキャベツの出荷に取り組むことになり、集出荷計画等の検討を支援した。

(4) 産地主導による新規就農者受入体制の整備

山口あぶトマト部会阿東支部をモデル産地として、部会役員会等で新規就農者受入に向けた検討を実施した結果、新規就農者を勧誘するための「阿東トマトPRパンフレット」の作成及び新規就農者用の栽培開始マニュアルを作成することになったので作成支援を行った。

### 3 普及活動の成果

- ・対象法人におけるたまねぎ、キャベツの面積が拡大した。  
たまねぎ 3法人 H28年産 6.6ha → H29年産 8ha  
キャベツ 4法人 H27年産 10ha → H28年産 11ha
- ・新たな販売先として、サラダクラブへの加工業務向けキャベツの出荷が始まり、H28年産は12月～2月に48t出荷された。
- ・「阿東トマトPRパンフレット」及び新規就農者用栽培開始マニュアルが完成した。

### 4 今後の普及活動に向けて

- ・法人間での機械共同利用の試行を行い、今後の連携に向けた検討を進める。
- ・今後の産地拡大に向けた条件整備のため、機械体系、利用体系、貯蔵～選果～出荷体制等の検討を行う。
- ・J A山口中央南部露地野菜プロジェクトと連携して、今後の業務向け出荷量拡大に対応したキャベツ品種、作型の実証・検討に取り組む。
- ・今年度作成した「阿東トマトPRパンフレット」を活用し、首都圏就農相談会等に参加することで、新規就農者の確保を目指す。